

## 歯科医師の教育における建学の精神

—患者さんに感謝を—

鶴見大学仏教文化研究所所員 小林 馨

### 一、横浜に在る歯学部の意味

鶴見大学歯学部は小林です。今日は学内関係の皆様には歯学部で建学の精神どのように使っているのかをお話したいと思っています。一般に参加していただいている皆様には、鶴見大学歯学部で何をしているのか、どんなことをしているのか、何故ここに歯学部があるのか、ということをご理解いただけたらと思ってお話をさせていただけます。今日はみなさん、ここにいらっしやるわけですが、私共歯科医学を学んでいる者にとっては、横浜は非常に大きな意味のある都市です。

御存じの通り、横浜は国際都市と言われますが、日本で非常に早い時期に、江戸時代から世界に向かって開かれた町というわけです。実は横浜は、西洋歯科医学の発祥の地です。西洋医学の発祥の地は、先ほどのお話にもありました長崎ですけれども、その後が開かれた横浜は、西洋歯科医学発祥の地として、広く認められています。このスライド（図1）のウィリアム・イーストレーキ先生が、一八六〇年に来日しています。まだ江戸時代です。横浜に来日しましたが、このころはまだ百人位しか居留している外国人がおりませんでしたので、歯科医院が成り立たないということで一度帰りますが、その後、一八六八年ですから、まさしく明治元年にもう一度横浜に来て、一旦開院をする

んですけれども、この後、上海・香港に拠点を移し、一八八一年に最後の横浜開港をしまして、最終的に日本に滞在されました。

もう一つ横浜は、西洋歯科医学勉強の地と言われております。(図2) ウィリアム・イーストレーキ先生の後にエリオット先生、パーキンス先生という方々が、この横浜で開業していました。日本人は、この先生方から、歯科を実際に教わって、自分達で医術開業試験を受けて歯科医師になるというような経緯を辿っていったというわけです。

その横浜に一つしかないこの鶴見大学の歯学部は、横浜という、非常に恵まれた歴史のあるところにある歯学部ということになります。さて、僕は知らなかったのですが、どうして鶴見は鶴見というのかと思っていたら、源頼朝が鶴を放ったところから、ここが鶴見という地名がついたらしいのですが、本当かどうかは僕も分かりません。人に聞いた話です。

鶴見は、横浜駅から電車で約十分位、東京駅からだと約三十分位、羽田から三十分位ということで、羽田空港から一番近い場所にある歯学部ということにもなります。

## 二、鶴見大学歯学部の開設

これは(図3)、うちの大学の全景航空写真です。この部分が今、体育館で、ここが二号館、ここが附属病院でございます。(ここに図書館があつて、四号館、五号館があります。五号館は、昔はここに、小講堂というものがあつて、僕たちの頃は朝、月曜か火曜の八時半から実践行持というものがあつて、みんなでそこに登って行って、椅子座禅を毎週毎週やつておりました。今はございません。その頃は般若心経もほとんど教えてもらえず、ただひたすら読ま続けるという、当時の教育だったのです。ここにいらつしやる皆様に總持寺の話を私ができるほどの知識はありませんが、總持寺のお膝元に私共の歯学部がつくられた一つの理由があると聞いております。大本山總持寺の歯学部と



図1. 神奈川県歯科医師会館前の西洋歯科医学の発祥地の碑（左図）と最初の米国人歯科医師ウィリアム・イーストレーキ（右図）。1860年横浜に来日、1868年横浜で最初の開業、1881年横浜居留地で2度目の開業。



図2. 神奈川県歯科医師会館前の西洋歯科医学勉学の地の碑。  
エリオット博士は、1870年横浜で歯科診療所を開設し門下生を指導した。パークINS博士は、1874年に診療所を引き継ぎ、1881年まで開業した。両歯科医師の門人がここで近代歯科医学を学び、伝えた。

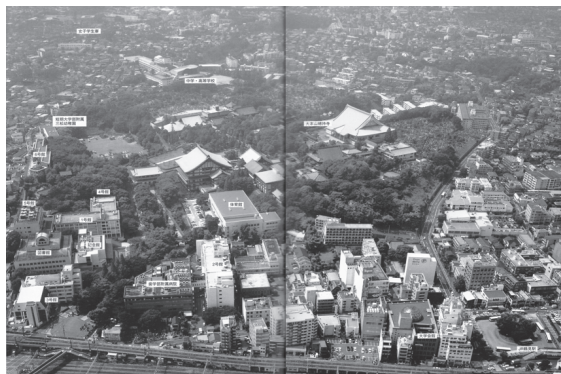


図3. 総持学園航空写真

して、道元禅師様の書かれた『正法眼蔵』の中に「洗面」という所があつて、これに基づいて、出来た歯学部であるという事です。これは「報恩行持」と同じように、実際に歯を磨いたり、顔を洗ったりする事が仏の行であるということに基づいてつくられたという事です。私共の鶴見大学歯学部は一九七〇年に曹洞宗大本山総持寺開祖瑩山禅師の六五〇年大遠忌を記念して、鶴見女子大学歯学部として発足致しました。初代の歯学部長は長尾優先生とおっしゃいます。この先生は昭和二十年、つまり太平洋戦争直後ですけれども、一九四五年から十年以上東京医科歯科大学の学長をやられて、引退された後にしばらくして、私共の初代歯学部長となられました。当時は私共の鶴見大学はたった一つの女子大学でございました。これは、先ほど一番最初に、短大、それから中・高のお話しの中にありましたが、本来は女子教育の場として大学はつくられたのです。

このスライド(図4)は、私共の歯学部の創立十周年記念誌から引用しています。長尾優先生は創立の中心を担うに当たつて、「諾も否も、一度本山の責任者である禅師住職に直接お会いして、その覚悟のほどが知りたい」とおっしゃつて、当時の岩本禅師様にお会いしたそうでございます

岩本禅師様は歯学部創設の大発起人として、第一に歯科衛生に関することが道元禅師様の『正法眼蔵』『洗面陀羅尼經』としてお示しになられている事、それから、第二番目に、總持寺の御開祖瑩山禅師様が總持寺は社会体制に参加して、多くの人間と信頼を結ぶために強化活動をするとおっしゃつているので、岩本禅師様は病院等の社会福祉事業や教育事業に力を入れているのが、總持寺の仕事だとおっしゃい、これに長尾先生が納得されて、今の私共の鶴見大学歯学部はあるわけです。

この写真(図5)は一九七〇年当時の鶴見大学歯学部の創立当時で、この当時を知るのは私の先輩で、ここにいらつしやる前田副学長です。二号館と呼ばれている今も残っている建物です。この地域の古い方は、御存じだと思いますが、こちらに参道がございまして、こちらに木造の建物かございますが、これは、当時の旧短大校舎及び三松幼稚

## 歯学部開設10周年記念誌によせて

わが鶴見大学歯学部が、ここに開設十周年を迎えることになりました。輝やかしく記念の式典をあげ、健やかに生長した記録の年誌をまとめ、さらに天下新聲にむかって堂々として披露のぞきまことは、まことに欣快にたえない次第でございます。

勿論、このような慶事を迎えるに至りましたのは、開設に關しての大学当局の非常な努力は筆舌にも及ばぬほどの餘わしい山成を越えてきましたことなど、数え切れないほど忘れないものがあります。

この機会に内外からうけました、ただならぬご厚意やご支援に對しては、その名を年誌に記して永遠に感謝し、そのご厚意に報いねばならぬ方は数えきれないほどであります。

わけでもこの趣意を企てられたのは、孤峰神師さまと三ツ学長であり、その薫意を遺したままご両人をご逝去されましたが、この両人の発意が因となったことは確かであります。

の難問調整に懸命でありました。

その上で、最も重要な難点となったのは、教員組織を編成することでありました。

この成否はこの学部の致命的な要點とされておりました。いあいみ曲折もありましたが、仏眼のお縁か、望月理事と今川教授のご紹介で、学務部長の長尾慶先生にご指導ご相談を願うような機縁ができたのであります。

長尾先生の問い一番は「大本山総持寺というお寺が専横にそのような学科を企てるのか？」次に本山と大学とはどんな関係か？医学に吉岡さんの女子医大が一つあるのみであるが、歯学には現在ないので、一つできるということは関心もないではない。但し最も困ることは教授人事の問題であり、これは私でも殆ど自信はない、むしろ、不可能に近いと思う。しかし、近藤学長、室神理事長や三輪学長の両三のご懇請もあることだから、少し考える時を一週間ほどください。近藤学長

の責任者である任職に直接にお会いしてその覚悟のほどが知りたい」という、極めて先生らしい慎重な態度でありました。

そこで、昭和33年11月の未の一日のごてありました。

当時の貫首若本神師さまも、熱心に閣下の意をお待たされたため、早速、駒込の吉祥寺の大家で拜問されることになり、全副貫首、室神理事長、近藤学長、今川教授、望月理事と私も同席いたしました。長尾先生が拜問され、先きほど申された疑問をされたのであります。

若本神師さまは、

「第1は、歯科衛生に關することも、近元神師さまの『正法眼識—洗眼の巻』に教えとお示しになっています」

「第2には、総持寺のご本山泰山神師さまも、総持寺をお開きになるとき『総持の一門八字』に關つて申され、総持寺は社会大衆に接し、多くの人間と親縁を結ぶために、教化活動をする寺である」と宣言なされたのであります。

図4. 鶴見大学歯学部創立十周年記念誌から。著者は三輪全龍学長（当時）。



図5. 1970年鶴見女子大学歯学部開設当時の2号館。右手前が旧短大校舎及び三松幼稚園の建物。手前が参道。

園でございます。もう少し拡大すると、ここに立派な旧短大校舎及び三松幼稚園があります。(図6) 私は一九七三年にこの大学に入学したのですが、その時にはまだ、この建物が今の病院棟の所にあり、ここは、クラブの部室になっていました。私は大きな木造の部室でとても気持ちよく過ごしました。

こんな風に(図7)、今病院が立つて、こんな形になっておりますけれども、昔は、これほど参道が見えていたという事に気づいて、参道を上から見て、もう何十年も年月が経つんだなと思いました。

こうなつても、まだまだ実際には校章のみで当時はロゴマークはありませんでした。私が、襟につけておりますのが、昔から今まで続く校章です。

先にまず、校章の新しいロゴマーク(図8)が出来まして、今の木村学長がいらっしゃって、鶴見大学のホームページに現在の、「お釈迦様と同じ悟りの知恵を身につけることに努め、人として生まれたことに感謝し、すべてのものに愛情をもって接し正しい生活をする」と、ご説明されました。

その次に、平成二十二年、ほぼ三年前ですが、そこで、「感謝の心 育んで いのち輝く 人となる」と書かれましたので、歯学部でも標語にしようという事にしました。今から、三年前に私が歯学部長を拝命させていただいた時から、これを薦めてきたわけです。「感謝を忘れず 真人となる」が人気投票で選ばれたのですが、申し訳ないのですが、こちらを使わせていただきました。このように建学の精神である「大覚円成 報恩行持」を「感謝のこころ 育んで いのち輝く 人となる」という風に歯学部では基本的に使わせていただいております。これは感謝、こころ、育、いのち、人という歯学教育に不可欠な言葉が入っているためです。

歯科医師の教育における建学の精神—患者さんに感謝を—



図 6.1970 年鶴見女子大学歯学部開設当時の 2 号館。手前が旧短大校舎及び三松幼稚園の建物



図 7. 現在の鶴見大学歯学部附属病院は図 5, 6 の三松幼稚園の跡地を中心に建設された。病院棟の後ろに 2 号館が見える。手前の参道の木々に 43 年の歳月を感じる。



図 8. 現在まで引き継がれた校章（左図）と現在のロゴマーク（右図）

## 二、鶴見大学歯学部における建学の精神の掲揚

現在は歯学部部の講堂には、建学の精神を掲示し、説明もしています。(図9)しかし、私は建学の精神を学生の時にほとんど教えてもらった記憶がありません。今思い出しますと、小講堂にもしかしたら、建学の精神が掲げてあったのかなど、先ほどふと思いい出しました。けれども、実際にそれについて、説明をお聞きしたことは、なかったと思います。当時の宗教学の、花山先生のお話はとてもおもしろく、よく覚えており、ノートを取っていますが、なかったように思います。

学生達が居る講堂ですべてに建学の精神を掲揚するということにしましたのは、私自身が知らなかった、覚えていないということ、常に目のつく所に無かったのだということを反省致しまして、いつも学生達が見る所であれば、自然に体に入ってくるだろう。これは、私達が考えた事ではございません。中・高に行くと建学の精神を掲揚して、毎日見ている、唱えるということが重要だということを教えていただきました。

私どもの歯学部には、医療人間科学特別研修というものがありまして、一年生が入ってきますと、木村学長が講義をしています。(図10)建学の精神について学生に話すということをしていきます。先ほど、短大の保育科からのお話を聞いて、建学の精神についてみんな同じような考えを持っていると思えました。歯学部で習わしていただいている学生さんには、「歯学部で学ばせていただいている保護者、家族のみなさんに感謝して、病院で学ばせていただいている患者さんに感謝し、すべてに感謝するところを、この大学で育んで、自らのいのちを輝かせ、患者さんを健康にすることで、患者さんのいのちを輝かせる医療人になろう。」と、学生さんに話しながら日々進んでいるわけです。これは、大学がすばらしい建学の精神を持っているということが学生に分かれば、学生も私共教職員も大学に対する誇りを強く持つのではないかと考えているためです。



歯科医師の教育における建学の精神—患者さんに感謝を—



図 9. 歯学部全講堂での建学の精神の掲揚



図 10. 木村学長による建学の精神についての講義 (入学時医療人間科学特別研修)

#### 四、歯学部教育理念と建学の精神

歯学部教育理念は建学の精神に基づいて、教養と良識を備えた信頼される優れた歯科医師の育成を使命としています。これも教育理念をみんなと一緒に読もうかということもよくやっています。(図11)まず、歯学部の教育理念



図 11. 歯学部教育理念の朗読 (入学時医療人間科学特別研修)

の中で、「大覚円成」と一致するものをスライド(図12①②)では、オレンジ色(グレー)にしました。二番目の医療人としての人格を形成する。三番目の国際的に活躍できる人になる。四番目の幅広い教養を身につけた人になる。五番目の問題点を発見して解決する能力を持つ人になる。オレンジ色にしましたのは、今日はネクタイもオレンジ色ですが、うちの大学のスクールカラーがオレンジだからです。

「報恩行持」にちようにこれが一致するところは、一番目の創造性に富む総合的な歯科医療を実践して、地域医療に貢献する人。コミュニケーション力に優れ、他者を思いやる心を忘れない人。この二つは正しく「報恩行持」であろうと思っています。こうして、私共が実際に学生さん達に教育が出来ているのは、私共、歯学部附属病院に来院して下さっている、地域の患者さん達のおかげです。患者さんが居なければ医療は成り立ちません。スラ

### 大覚円成

鶴見大学歯学部は建学の精神に基づき、深い教養と良識を備えた信頼される優れた歯科医師の育成を使命としています。

次のような人材の育成を目指しています。

- ①創造性に富む総合的な歯科医療を実践し、地域医療に貢献する人
- ②医療人としての人格を形成し、コミュニケーション力に優れ、他者を思いやる心を忘れない人
- ③最新の歯科医学を求める研究心を持ち続け、国際的に活躍できる人
- ④専門の知識だけでなく、幅広い教養を身につけた人
- ⑤様々な局面における問題点を発見し解決する能力を持つ人

図 12 ① . 歯学部教育理念と建学の精神の大覚円成との繋がり

### 報恩行持

鶴見大学歯学部は建学の精神に基づき、深い教養と良識を備えた信頼される優れた歯科医師の育成を使命としています。

次のような人材の育成を目指しています。

- ①創造性に富む総合的な歯科医療を実践し、地域医療に貢献する人
- ②医療人としての人格を形成し、コミュニケーション力に優れ、他者を思いやる心を忘れない人
- ③最新の歯科医学を求める研究心を持ち続け、国際的に活躍できる人
- ④専門の知識だけでなく、幅広い教養を身につけた人
- ⑤様々な局面における問題点を発見し解決する能力を持つ人

図 12 ② . 歯学部教育理念と建学の精神の大覚円成との繋がり



図 13. 鶴見大学歯学部附属病院。1日 850～1,000 名を超える患者さんが来院される地域医療の拠点病院。

イド（図 13）は、私共の病院です。一日千人弱の患者さんにいらつしやっていたいています。二〇一一年までのグラフ（図 14）を見ますと、縦軸に歯科の外来の患者さんの来院数、横軸が年です。本学附属病院の患者さんの来院数は私立では全国で一番か二番。公立を入れなくても、二番か三番という風にたくさん患者さんに来ていただいています。本当に心から感謝を申し上げたいと思っています。おかげ様で学生達は、しっかりとした患者さんの診療を学ぶことが出来ます。学生達に実際の患者さんを診ることにありがたみを感じますかと聞きますと、85%が「はい」と答えますし、ここに（図 15）書きましたように、患者さんから治療に対して非常に感謝されたことがある人もいます。臨床実習で患者さんと触れ合ったこの一年は人生の宝と申す学生もいます。学生達も患者さんに感謝しています。そして、鶴見大学でよかったという。もう一つは患者さんと離れることが寂しいといっている学生もいます。ただ、学生は一生懸命やっていますけど、患者さんがとても不安ではいけませんので、患者さんのお声をお聞き致しました。（図 16）学生の

歯科医師の教育における建学の精神—患者さんに感謝を—

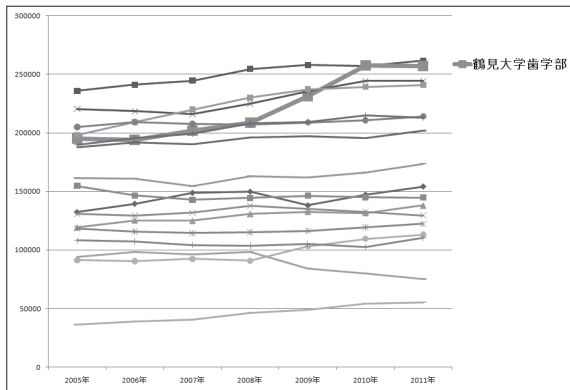


図 14. 全国私立歯科大学・歯学部 17 校の附属病院の歯科外来に来院する年間患者さんの推移。それぞれの線は各病院を表している（データは日本歯科医学教育学会雑誌別冊 歯科医学教育白書 2011 年版から引用しグラフにした）。

- ・この1年間は色々な意味で、成長できた1年でした。本当に患者さんと触れあい、治療をして、とても良い経験になりました。
- ・もっとたくさんの治療を行いたかった。患者さんから治療に対する感謝された。この経験は一生忘れない思い出となりました。
- ・臨床実習で患者さんと触れ合ったこの1年間は人生の宝物です!!
- ・実際に患者さんを診ることができてとても勉強になりました。患者さんに感謝しています。
- ・それぞれ大変な時期はあったけど、尊敬できる先生達にも巡りあえたので、大きな収穫もあり良かったと思う
- ・学生が患者さんを担当するのはいい経験になったので続けてほしい。
- ・鶴見の臨床実習は他大学よりも充実していました。5年次になって初めて鶴見大学で良かったと思いました
- ・患者さんと触れ合うことができてとても良かったです。患者さんと離れることが寂しい位ラポールの形成ができて良かったです。

図 15. 臨床実習についての学生の感想、自由記載から一部抜粋。

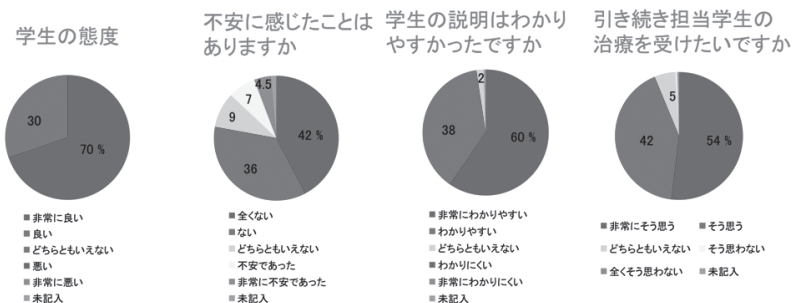


図 16. 臨床実習の学生に対する患者さんアンケートの結果。

対応・態度について、非常に良いというのが70%、良いが30%、学生は100%態度は良さそうです。学生に不安を感じたことがありますかと聞くと、42%と36%ですから、約八割の方が不安を感じない。しかし、10%ちよつとの方が不安に感じていらつしやる所といったところは私共、教員が十分に指導に努めていきたいと思ひます。最もありがたいご意見は、患者さん達が来年も今自分を見てくれてる学生に引き続き担当して欲しいですかと聞くと、95%の方が来年も続けて見てもらいたいという、とてもありがたい言葉をいただいています。先ほど申し上げましたが、こうして歯科医師教育ができるのは、鶴見大学歯学部附属病院に来院してくださっている患者さんのおかげでございます。患者さんが居なければ医療は成り立ちませんので、今日は鶴見大学歯学部を代表して患者の皆様に感謝を申し上げます。

## 五、医の倫理と建学の精神

今、非常に色々なところで求められているのは、医学教育・歯学教育の中で「医の倫理」を教えよう、改めて「医の倫理」を教えようというような気運が高まっています、新しいカリキュラムにたくさん入っています。また、教育理念をより強固にするという時代になってきました。

ここには、その倫理の一つとして有名な「現代版のヒポクラテスの誓い」といわれるジュネーブ宣言を出しました。(図17)これと、私共の建学の精神の関係を見てみたいと思ひます。このジュネーブ宣言「現代版ヒポクラテスの誓い」を私共の学生達は実際に臨床の実習で、病院に上がってくる時に必ず全員で教員含めまして、朗読をして、そして、医療の場に向かっていきます。(図18)ヒポクラテスという方は紀元前四六〇年くらいの方で、こんな顔をしていたという方です。これは、古来伝承のヒポクラテスの印象に基づいて描かれた十八世紀のフランス人の版画で、裏付けの証拠は乏しいということです。これはギリシャのお土産でいただいたヒポクラテスの誓いの原書。これはヒポクラテ

現代版ヒポクラテスの誓い

—ジュネーブ宣言— 1948年第2回世界医師会総会制定  
(1968年,1984年,1994年,2005年,2006年 改定)

医療専門職の一員としての任を得るにあたり、

- ・私は、人類への貢献に自らの人生を捧げることを厳粛に誓う。
- ・私は、私の恩師たちへ、彼らが当然受けるべき尊敬と感謝の念を捧げる。
- ・私は、良心と尊厳とをもって、自らの職務を实践する。
- ・私の患者の健康を、私の第一の関心事項とする。
- ・私は、たとえ患者が亡くなった後であろうと、信頼され打ち明けられた秘密を尊重する。
- ・私は、全身全霊をかけて、医療専門職の名誉と高貴なる伝統を堅持する。
- ・私の同僚たちを、私の兄弟姉妹とする。
- ・私は、年齢、疾患や障害、信条、民族的起源、性別、国籍、所属政治団体、人種、性的指向、社会的地位、その他いかなる他の要因の斟酌であっても、私の職務と私の患者との間に干渉することを許さない。
- ・私は、人命を最大限尊重し続ける。
- ・私は、たとえ脅迫の下であっても、人権や市民の自由を侵害するために私の医学的知識を使用しない。
- ・私は、自由意思のもと私の名誉をかけて、厳粛にこれらのことを誓約する。

図17. 現代版ヒポクラテスの誓い：ジュネーブ宣言と建学との関連。強く関係がある部分にアンダーラインを引いた。



図18. 現代版ヒポクラテスの誓い：ジュネーブ宣言を学生・教職員全員で朗読。

スの木と呼ばれているすずかけの木の葉っぱです。(図19) 右はギリシャに行ったときに、買ったもので小さいものですけれども、こういった物がたくさん売っているくらい、ヒポクラテスはギリシャでは愛されているのです。私共の大学にも、今日もいらつしやっております関根名誉教授が持つてこられた「ヒポクラテスの木」がございませう。大学附属病院の前の道をずっと歩いていきますと、右手のちょうど電柱があるところに「ヒポクラテスの木」があつて、今はここにこの写真のように生えています。(図20) 本年度中には、これに立派なプレートをつけて説明ができるようにして、場所を移すという予定ですが、来年度くらいには、「ヒポクラテスの木」の前で、みんな「ヒポクラテスの誓い」をやりたいなと思つていきます。

「ヒポクラテスの誓い」と言いますのは、非常に有名で、皆様も御存じだと思ひますけれども、これは医療倫理の根幹を成す患者の生命、健康保護の思想、患者のプライバシーといったものを含んでいます。自己犠牲献身を謳つているわけではありません。小川鼎三先生の元の「ヒポクラテスの誓い」の全文訳では、五番の「いかなる患者を訪れるときもそれはただ病者を利益するためであり、あらゆる勝手な戯れや墮落の行いを避ける。女と男、自由人と奴隷のちがいを考慮しない。」大昔の時代、奴隷と普通の人を区別しませんと言つたのは、医療のみでございます。これは私共もとつて、非常に重要だと思つていきます。

ジュネーブ宣言に戻りますと、「医療専門職の一員として任を得るにあたり、私は人類への貢献」、これは「報恩行持」だと思ひます。「自らの人生を捧げることが厳粛に誓う。」私は、私の恩師たちへ、彼らが当然受けるべき尊敬と感謝の念を捧げる。私は、良心と尊厳とをもつて、自らの職務を実践する。私の患者の健康を、私の第一の関心事項とする。私は、たとえ患者が亡くなつた後であろうと、信頼され打ち明けられた秘密を尊重する。私は、全身全霊をかけて、医療専門職の名誉と高貴なる伝統を堅持する。私の同僚たちを、私の兄弟姉妹とする。私は、年齢、疾患や障害、信条、民族的起源、性別、国籍、所属政治団体、人種、性的指向、社会的地位、その他いかなる他の要因の斟酌



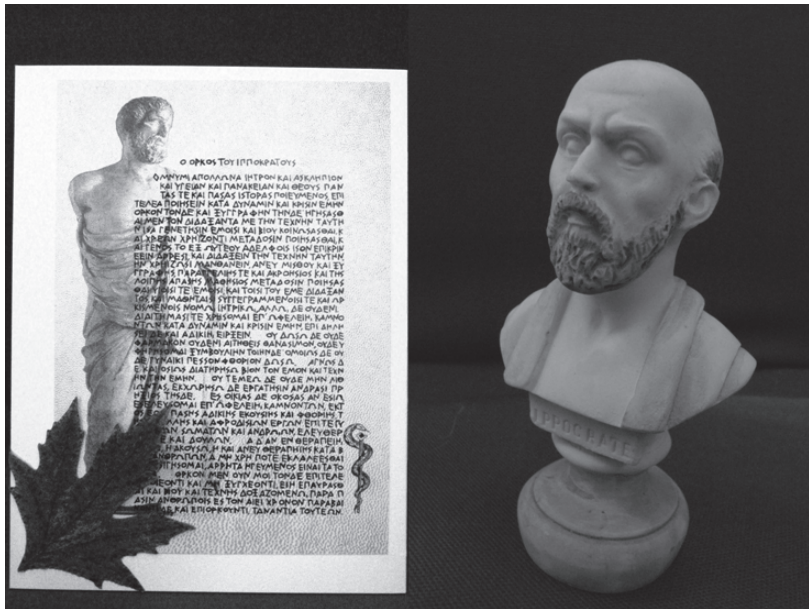


図 19. ギリシア語で書かれたヒポクラテスの誓いとヒポクラテスの木の歯 (左図)  
ヒポクラテスの小型石造の土産物 (右図)



図 20. 鶴見大学のヒポクラテスの木

であっても、私の職務と私の患者との間に干渉することを許さない。私は、人命を最大限尊重し続ける。私は、たとえ脅迫の下であっても、人権や市民の自由を侵害するために私の医学的知識を使用しない。私は、自由意思のもと私の名譽をかけて、厳肅にこれらのことを誓約する。」という風になっていまして、アンダーラインの所が建学の精神と一致するところでございます。

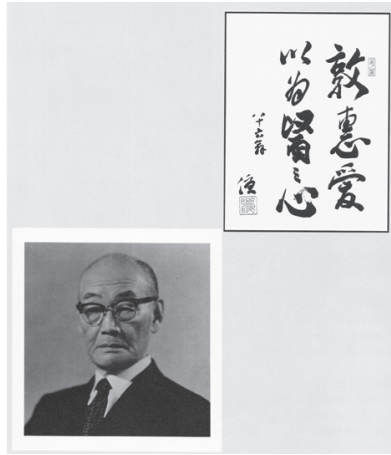


図 21. 長尾 優 初代歯学部長と鶴見大学歯学部開設の精神「恵愛を敦くし、以って醫の心と爲す」（鶴見大学歯学部創立 10 周年記念誌から）

歯学部は一九七五年に五年間歯学部長を勤められた長尾優先生がご逝去されて、その年の後半から、石川堯雄先生が二代目の歯学部長になられ、私は十一代目です。長尾先生は、一九四五年から一九六一年という非常に長期にわたって、東京医科歯科大学の学長をされています。鶴見大学に着かれたときは八十三歳という御高齢でした。この時に長尾先生が、私共の歯学部開設の精神として残されたのが、「恵愛を敦くし、以って醫の心と爲す」というお言葉です。（図 21）「恵愛を敦くして、以って醫の心と爲す」は「大覚円成 報恩行持」とまさしくつながる言葉と思いますし、

木村学長が現代に訳された「感謝のこころ 育んで いのち輝く 人となる」も一つの路でつながっている言葉だと思います。医療人教育にも適した建学の精神と歯学部開設の精神を残していただいた先人に心から感謝し、この二つの精神を持って教育理念を体現する歯科医師を育成してまいりたいと思います。

皆様、ご清聴ありがとうございました。